

# 調査結果の概要

## 発 育 状 態

### 1 身長・体重の平均値

平成29年度及び平成28年度の幼稚園、小学校、中学校、高等学校における幼児、児童及び生徒の身長・体重の平均値を年齢別にみると、表1のとおりである。

表1 年齢別、身長・体重の平均値

区 分		身 長 (cm)				体 重 (kg)			
		男		女		男		女	
		H29	H28	H29	H28	H29	H28	H29	H28
幼 稚 園	5歳	110.1	109.7	109.5	108.8	18.8	18.7	18.7	18.3
小 学 校	6歳	116.2	116.3	115.6	115.2	21.3	21.3	21.2	20.7
	7	122.3	122.3	120.8	121.2	24.0	24.1	23.3	23.5
	8	128.2	127.7	127.3	127.1	27.4	26.8	26.8	26.6
	9	133.2	133.3	133.3	132.9	30.3	30.7	29.9	29.8
	10	138.7	138.6	139.5	140.0	34.2	34.0	33.8	34.4
	11	145.3	144.6	147.0	146.8	38.7	38.0	39.9	39.6
中 学 校	12歳	151.7	<u>152.7</u>	151.6	151.7	44.1	44.4	44.4	44.4
	13	<u>159.9</u>	159.5	154.2	154.8	49.5	49.2	47.7	47.8
	14	164.8	<u>165.2</u>	156.2	156.4	53.9	54.2	<u>51.1</u>	50.1
高 等 学 校	15歳	168.0	167.7	156.1	156.6	58.6	60.1	51.7	52.7
	16	169.7	<u>170.2</u>	157.3	157.0	60.5	62.1	52.2	52.5
	17	171.0	170.7	157.5	157.0	63.8	63.1	53.6	53.0

注) 1 下線の部分は調査実施以来最高を示す。以下の各表において同じ。

2 年齢は、平成29年4月1日現在の満年齢である。以下の各表において同じ。

## (1) 身長

男子の身長は、5歳で110.1cm、11歳で145.3cm、14歳で164.8cm、17歳で171.0cmとなっており、5歳、8歳、10歳、11歳、13歳、15歳、17歳の各年齢で前年度より伸びている。

なお、各年齢間の身長差は12歳と13歳の間(8.2cm)が最も大きく、16歳と17歳の間(1.3cm)が最も小さい。

女子の身長は、5歳で109.5cm、11歳で147.0cm、14歳で156.2cm、17歳で157.5cmとなっており、5歳、6歳、8歳、9歳、11歳、16歳、17歳の各年齢で前年度より伸びている。

なお、各年齢間の身長差は10歳と11歳の間(7.5cm)が最も大きく、14歳と15歳の間(-0.1cm)が最も小さい。

9歳~11歳で女子の身長は、男子の身長を上回っている。

## (2) 体重

男子の体重は、5歳で18.8kg、11歳で38.7kg、14歳で53.9kg、17歳で63.8kgとなっており、5歳、8歳、10歳、11歳、13歳、17歳の各年齢で前年度より増えている。

なお、各年齢間の体重差は11歳と12歳、12歳と13歳の間(5.4kg)が最も大きく、15歳と16歳の間(1.9kg)が最も小さい。

女子の体重は、5歳で18.7kg、11歳で39.9kg、14歳で51.1kg、17歳で53.6kgとなっており、5歳、6歳、8歳、9歳、11歳、14歳、17歳の各年齢で前年度より増えている。

なお、各年齢間の体重差は10歳と11歳の間(6.1kg)が最も大きく、15歳と16歳の間(0.5kg)が最も小さい。

11歳、12歳で女子の体重は、男子の体重を上回っている。

## 2 身長・体重の推移

### (1) 身長の推移

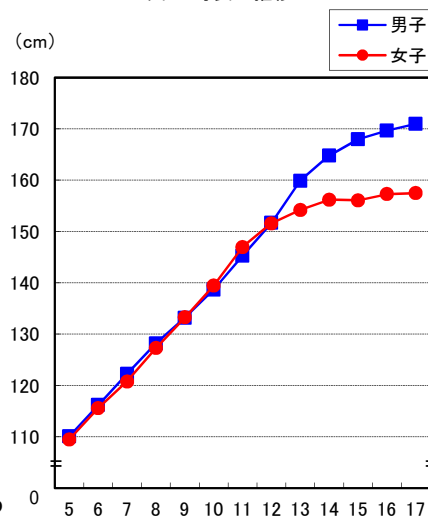
身長推移をみると、表2のとおり、男女ともここ数年ほぼ横ばい傾向を示している。

親の世代である約30年前(昭和62年度)のと比較すると、男子の身長は、11歳で2.2cm、14歳で1.7cm、17歳で1.0cm高くなっている。(図2)

女子の身長は、6歳で0.3cm低く、11歳で1.7cm、17歳で0.4cm、30年前より高くなっている。(図3)

下表の年齢区分で全国と比較すると、平成29年度では、男子の11歳と17歳、女子の11歳で全国平均を上回っている。

図1 身長の推移

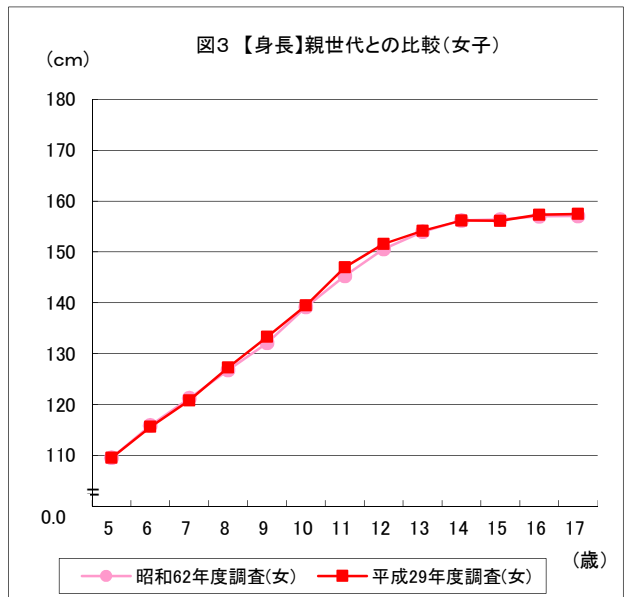
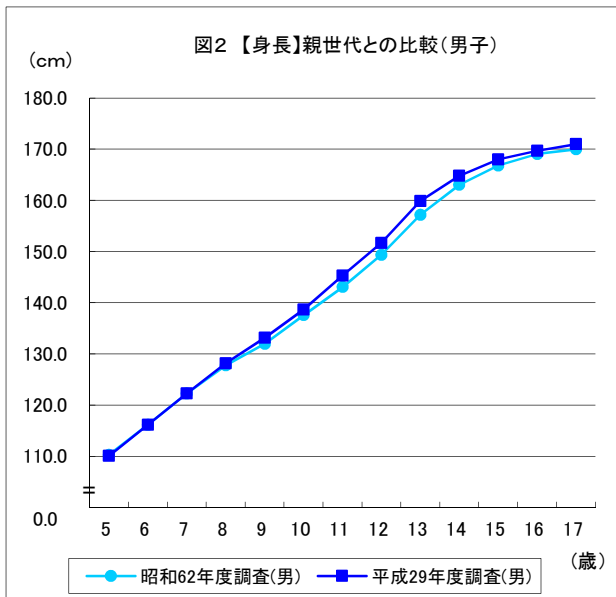


(歳)

表2 身長の推移

(単位：cm)

区分	佐 賀 県							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
昭和62年度	116.2	143.1	163.1	170.0	115.9	145.3	156.2	157.1
平成 9	116.1	144.3	164.7	170.5	115.5	146.8	156.1	158.1
19	116.5	144.8	164.6	171.2	115.3	147.6	156.1	156.8
24	116.3	144.6	164.6	170.3	115.6	146.7	156.4	157.6
25	116.7	144.3	164.8	170.5	115.1	147.0	156.2	157.1
26	116.5	144.9	164.8	170.1	115.6	146.5	156.1	157.5
27	116.5	144.9	165.2	171.0	115.9	146.9	156.2	157.4
28	116.3	144.6	165.2	170.7	115.2	146.8	156.4	157.0
29	116.2	145.3	164.8	171.0	115.6	147.0	156.2	157.5
区分	全 国							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
昭和62年度	116.6	143.8	164.0	170.3	115.8	145.8	156.3	157.8
平成 9	116.7	145.0	165.3	170.9	115.9	147.0	156.8	158.0
19	116.6	145.1	165.2	170.8	115.8	146.8	156.7	158.0
24	116.5	145.0	165.1	170.7	115.6	146.7	156.5	158.0
25	116.6	145.0	165.0	170.7	115.6	146.8	156.5	158.0
26	116.5	145.1	165.1	170.7	115.5	146.8	156.4	157.9
27	116.5	145.2	165.1	170.7	115.5	146.7	156.5	157.9
28	116.5	145.2	165.2	170.7	115.6	146.8	156.5	157.8
29	116.5	145.0	165.3	170.6	115.7	146.7	156.5	157.8



年間発育量

17歳（平成11年度生まれ）の年間発育量をみると、表3のとおり男子では12歳時、女子では10歳時に最大の発育量を示している。

表3 【身長】平成11年度生まれと昭和44年度生まれの者の年間発育量の比較

(単位: cm)

区分	男子		女子	
	平成11年度生まれ (平成29年度17歳)	昭和44年度生まれ (親の世代の17歳)	平成11年度生まれ (平成29年度17歳)	昭和44年度生まれ (親の世代の17歳)
総発育量	60.4	-	47.9	-
幼稚園				
5歳時	5.8	5.2	6.0	5.3
6歳時	6.1	5.6	6.2	5.7
小学校	7	5.4	6.1	5.5
	8	5.0	4.6	6.6
	9	5.8	5.9	6.3
	10	5.9	5.1	7.1
	11	6.9	6.9	4.7
中学校	12歳時	7.7	6.8	2.6
	13	5.6	7.2	1.5
	14	3.1	3.7	0.4
高等学校	15歳時	2.3	2.3	0.5
	16	0.8	1.1	0.5

\* 年間発育量とは、例えば、平成11年度生まれの5歳時の年間発育量は、平成18年度調査6歳の者の身長から平成17年度調査5歳の者の身長を引いたものである。

図4 【身長】平成11年度生まれと昭和44年度生まれの者の年間発育量の比較(男子)

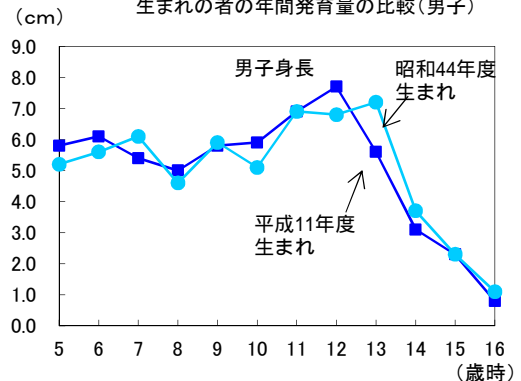
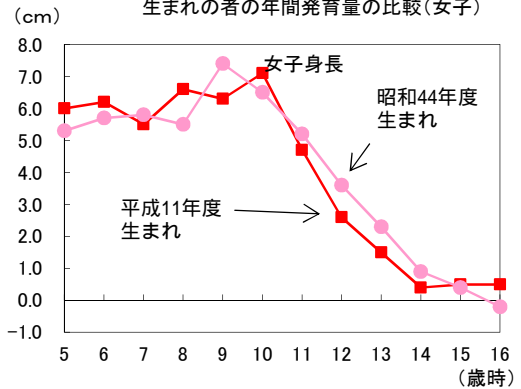


図5 【身長】平成11年度生まれと昭和44年度生まれの者の年間発育量の比較(女子)

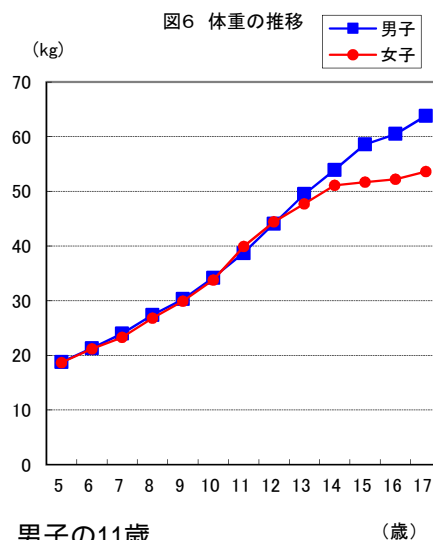


(2) 体重の推移

体重の推移をみると、表4のとおり、男女ともここ数年ほぼ横ばい傾向を示している。

親の世代である、約30年前（昭和62年度）と比較すると、男子の体重は、6歳で0.3kg、11歳で2.6kg、14歳で2.3kg、17歳で4.0kg重くなっている。（図7）

女子の体重は、6歳で0.4kg、11歳で2.1kg、14歳で1.8kg、17歳で1.3kg、30年前より重くなっている。（図8）。

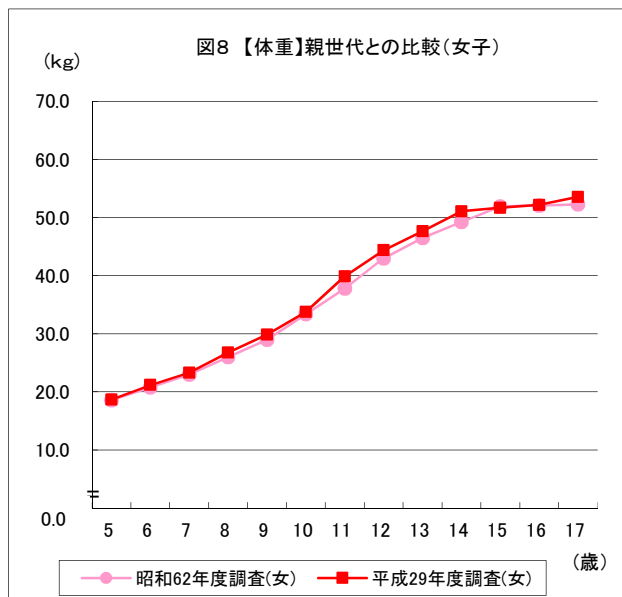
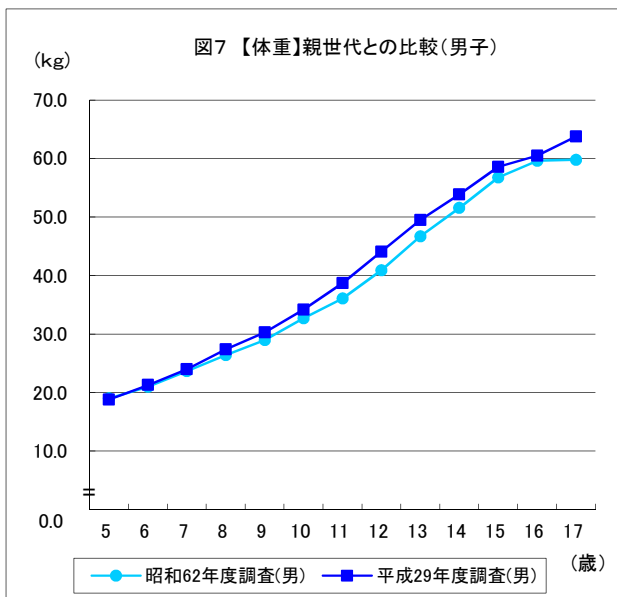


下表の年齢区分で全国と比較すると、平成29年度では、男子の11歳、17歳、女子の6歳、11歳、14歳、17歳で全国平均を上回っている。

表4 体重の推移

(単位：kg)

区分	佐 賀 県							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
昭和62年度	21.0	36.1	51.6	59.8	20.8	37.8	49.3	52.3
平成 9	21.6	37.7	53.6	62.5	20.9	39.6	50.1	53.1
19	21.6	38.1	53.6	63.3	21.0	39.9	50.3	53.1
24	21.2	37.3	54.2	62.8	21.1	39.3	49.6	53.3
25	21.6	37.9	53.6	63.9	20.8	38.9	50.3	52.5
26	21.5	38.6	53.9	62.5	21.0	39.2	50.8	52.5
27	21.4	37.8	54.2	63.0	21.2	39.2	50.4	54.3
28	21.3	38.0	54.2	63.1	20.7	39.6	50.1	53.0
<b>29</b>	<b>21.3</b>	<b>38.7</b>	<b>53.9</b>	<b>63.8</b>	<b>21.2</b>	<b>39.9</b>	<b>51.1</b>	<b>53.6</b>
区分	全 国							
	男				女			
	6歳	11歳	14歳	17歳	6歳	11歳	14歳	17歳
昭和62年度	21.3	37.2	53.4	61.8	20.9	38.3	49.8	52.8
平成 9	21.7	39.1	54.9	62.9	21.2	39.8	50.4	52.9
19	21.5	38.7	54.7	63.7	21.0	39.1	50.3	53.5
24	21.3	38.2	54.2	62.9	20.9	38.9	49.9	52.9
25	21.3	38.3	54.0	62.8	20.9	39.0	49.9	52.9
26	21.3	38.4	53.9	62.6	20.8	39.0	50.0	52.9
27	21.3	38.2	53.9	62.5	20.8	38.8	49.9	53.0
28	21.4	38.4	53.9	62.5	20.9	39.0	50.0	52.9
<b>29</b>	<b>21.4</b>	<b>38.2</b>	<b>53.9</b>	<b>62.6</b>	<b>21.0</b>	<b>39.0</b>	<b>50.0</b>	<b>53.0</b>



年間発育量

17歳（平成11年度生まれ）の年間発育量をみると、表5のとおり、男子は11歳時、女子は10歳時に最大の発育量を示している。

表5 【体重】平成11年度生まれと昭和44年度生まれの者の年間発育量の比較

区分	(単位: kg)			
	男子		女子	
	平成11年度生まれ (平成29年度17歳)	昭和44年度生まれ (親の世代の17歳)	平成11年度生まれ (平成29年度17歳)	昭和44年度生まれ (親の世代の17歳)
総発育量	44.7	-	34.9	-
幼稚園				
5歳時	2.3	1.7	2.3	1.9
6歳時	2.8	2.4	2.7	2.2
小学校				
7	2.9	2.7	2.6	2.7
8	2.9	2.7	4.0	3.1
9	4.2	3.5	4.2	4.5
10	3.3	3.2	5.0	4.5
11	5.9	5.5	4.8	4.7
中学校				
12歳時	5.5	4.9	3.7	4.5
13	5.0	6.3	2.8	3.1
14	5.3	4.8	0.9	2.6
高等学校				
15歳時	2.9	2.6	0.8	0.3
16	1.7	1.0	1.1	0.3

\* 年間発育量とは、例えば、平成11年度生まれの5歳時の年間発育量は、平成18年度調査6歳の者の体重から平成17年度調査5歳の者の体重を引いたものである。

図9 【体重】平成11年度生まれと昭和44年度生まれの者の年間発育量の比較(男子)

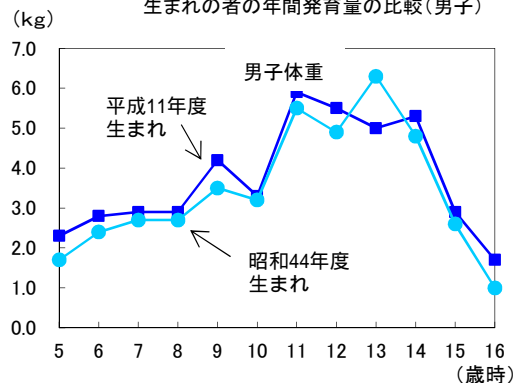
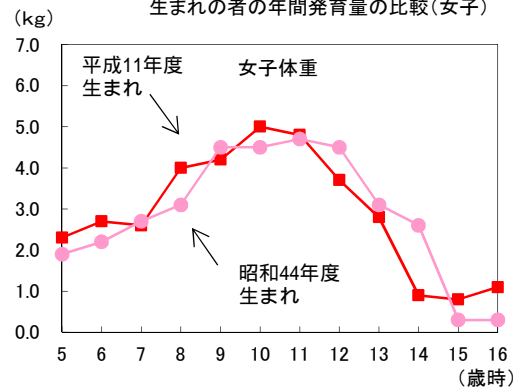


図10 【体重】平成11年度生まれと昭和44年度生まれの者の年間発育量の比較(女子)



## 健康状態

### 1 疾病・異常の被患率状況

疾病・異常の被患率を段階別にみると、表6のとおりである。

疾病・異常の被患率の中で高いものは、むし歯(う歯)で、小学校54.5%、高等学校50.0%、幼稚園48.4%、中学校35.1%の順となっている。

また、裸眼視力1.0未満の者は、中学校53.6%、小学校34.1%となっている。

表6 疾病・異常の被患率

(単位：%)

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
90%以上					
80%以上～90%未満					
70～80					
60～70					
50～60		むし歯(う歯)	裸眼視力1.0未満	むし歯(う歯)	
40～50	むし歯(う歯)				
30～40		裸眼視力1.0未満	むし歯(う歯)		
20～30					
10～20		鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患	
1～10	8～10		歯・口腔のその他の疾病・異常		
	6～8		耳疾患	歯列・咬合	
	4～6	歯列・咬合	眼の疾病・異常	歯垢の状態 歯・口腔のその他の疾病・異常 歯肉の状態	心電図異常
	2～4	歯・口腔のその他の疾病・異常 ぜん息 その他の皮膚疾患 口腔咽喉頭疾患・異常 鼻・副鼻腔疾患	歯列・咬合 心電図異常 その他の疾病・異常 歯垢の状態 アトピー性皮膚炎 ぜん息 栄養状態	耳疾患 その他の疾病・異常 眼の疾病・異常 心電図異常 蛋白検出者 せき柱・胸郭・四肢の状態	その他の疾病・異常 歯・口腔のその他の疾病・異常 歯肉の状態 眼の疾病・異常 栄養状態
	1～2	その他の疾病・異常 アトピー性皮膚炎 耳疾患 心臓の疾病・異常 眼の疾病・異常	歯肉の状態 口腔咽喉頭疾患・異常 せき柱・胸郭・四肢の状態	アトピー性皮膚炎 ぜん息 栄養状態	せき柱・胸郭・四肢の状態 アトピー性皮膚炎 ぜん息 蛋白検出の者
	0.1～1	歯肉の状態 歯垢の状態	難聴 心臓の疾病・異常 蛋白検出者 その他の皮膚疾患 言語障害	心臓の疾病・異常 難聴 その他の皮膚疾患	心臓の疾病・異常 難聴
0.1～1	0.5～1				
	0.1～0.5	栄養状態 せき柱・胸郭・四肢の状態 顎関節	腎臓疾患 顎関節	口腔咽喉頭疾患・異常 顎関節 腎臓疾患 尿糖検出者 言語障害	顎関節 その他の皮膚疾患 尿糖検出者 口腔咽喉頭疾患・異常 腎臓疾患 結核 言語障害
0.1%未満		結核の精密検査対象者 尿糖検出者	結核の精密検査対象者		

注) 1 「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽喉炎、喉頭炎、へんとう炎、音声言語異常等のある者をいう。

2 「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、だ石、癒合歯、要注意乳歯等のある者である。

3 「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。

4 「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。

5 「その他の疾病・異常」とは、いずれの調査項目にも該当しない疾病・異常の者である。

## 2 主な疾病・異常の推移

疾病・異常のうち主なものについて、およそ10年間の推移をみると表7のとおりである。

表7 主な疾病・異常の推移

(単位：%)

	区 分	むし歯 (う歯)	裸 眼 視 力 1 ・ 0 未 満 の 者	鼻 ・ 副 鼻 腔 疾 患	耳 疾 患	心 電 図 異 常	ぜ ん 息	蛋 白 検 出 の 者
幼稚園	平成19年度	62.6	12.0	2.7	3.7	...	3.8	1.3
	25	52.4	X	2.7	5.5	...	1.1	1.4
	26	45.9	X	2.4	2.1	...	3.2	-
	27	46.5	X	1.8	1.8	...	0.9	-
	28	47.7	X	8.9	1.9	...	2.7	2.9
	<b>29</b>	<b>48.4</b>	<b>X</b>	<b>2.0</b>	<b>1.5</b>	<b>...</b>	<b>3.2</b>	<b>-</b>
小学校	平成19年度	71.2	28.1	14.1	5.4	4.7	2.0	0.9
	25	60.5	30.9	12.6	7.1	4.1	1.9	0.5
	26	59.8	31.9	13.7	6.2	4.9	3.3	0.9
	27	58.3	33.4	11.9	6.4	4.3	3.3	0.5
	28	56.2	33.6	10.9	6.3	3.5	3.7	0.5
	<b>29</b>	<b>54.5</b>	<b>34.1</b>	<b>12.7</b>	<b>6.5</b>	<b>3.5</b>	<b>2.5</b>	<b>0.7</b>
中学校	平成19年度	62.7	53.8	13.6	4.6	6.2	1.4	1.1
	25	39.8	48.8	13.2	4.3	6.5	1.5	1.6
	26	35.1	51.1	13.3	4.5	5.9	1.4	2.1
	27	36.0	52.0	12.3	4.8	6.3	2.0	2.8
	28	34.9	55.2	10.8	3.6	4.4	1.6	1.3
	<b>29</b>	<b>35.1</b>	<b>53.6</b>	<b>10.6</b>	<b>3.5</b>	<b>2.7</b>	<b>1.7</b>	<b>2.3</b>
高等学校	平成19年度	75.3	58.6	11.3	2.1	6.7	1.5	2.1
	25	62.7	X	13.3	2.4	6.0	1.3	1.8
	26	55.3	53.4	13.8	2.2	5.3	1.2	2.0
	27	55.0	X	8.0	1.8	6.3	1.5	3.4
	28	53.7	X	11.1	2.3	5.0	1.5	2.6
	<b>29</b>	<b>50.0</b>	<b>X</b>	<b>13.0</b>	<b>2.5</b>	<b>5.1</b>	<b>1.7</b>	<b>1.5</b>

注) 1. 「-」は計数がない場合。「0.0」は計数が表示単位未満の場合。

「...」は調査対象とならなかった場合。

2. 「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上、受検者数が100人(5歳は50人)未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。



(1) むし歯(う歯)の被患率

「むし歯(う歯)」について、「処置完了者」と「未処置歯のある者」に区分してみると、表10のとおりである。

むし歯の被患率(治療済みの者を含む)は、幼稚園48.4%(全国35.5%)、小学校54.5%(全国47.1%)、中学校35.1%(全国37.3%)、高等学校50.0%(全国47.3%)となっており、中学校を除いて全国平均を上回っている。

表8 むし歯(う歯)の処置完了状況等の推移 (単位: %)

区 分		年 度	H19	25	26	27	28	29	全 国 (H29)
幼 稚 園	計	62.6	52.4	45.9	46.5	47.7	<b>48.4</b>	35.5	
	処置完了者	19.1	24.1	18.5	17.1	17.8	<b>19.8</b>	13.9	
	未処置歯のある者	43.5	28.3	27.3	29.4	29.9	<b>28.6</b>	21.6	
小 学 校	計	71.2	60.5	59.8	58.3	56.2	<b>54.5</b>	47.1	
	処置完了者	28.1	26.7	27.5	27.1	25.7	<b>24.2</b>	24.1	
	未処置歯のある者	43.2	33.8	32.3	31.2	30.5	<b>30.3</b>	23.0	
中 学 校	計	62.7	39.8	35.1	36.0	34.9	<b>35.1</b>	37.3	
	処置完了者	28.7	21.0	18.9	19.9	18.1	<b>18.2</b>	21.1	
	未処置歯のある者	34.1	18.9	16.2	16.1	16.8	<b>16.9</b>	16.2	
高 等 学 校	計	75.3	62.7	55.3	55.0	53.7	<b>50.0</b>	47.3	
	処置完了者	42.1	31.1	30.3	27.9	27.1	<b>27.0</b>	27.6	
	未処置歯のある者	33.2	31.5	25.0	27.1	26.6	<b>23.0</b>	19.7	

( 2 ) 裸眼視力1.0未満の被患率

裸眼視力1.0未満の者の割合は、小学校34.1%（全国32.5%）、中学校53.6%（全国56.3%）となっており、小学校で全国平均を上回っている。

10年前（平成19年度）と比較すると、小学校では6.0ポイント高くなっており、なかでも裸眼視力0.3未満の者は、10年前より3.3ポイント高くなっている。

表9 裸眼視力1.0未満の者の推移

（単位：％）

区 分		年 度	H19	25	26	27	28	29	全 国 ( H29 )
幼 稚 園	計		12.0	X	X	X	X	X	24.5
	1.0未満0.7以上		7.0	X	X	X	X	X	18.1
	0.7未満0.3以上		5.0	X	X	X	X	X	5.7
	0.3未満		-	X	X	X	X	X	0.7
小 学 校	計		28.1	30.9	31.9	33.4	33.6	<b>34.1</b>	32.5
	1.0未満0.7以上		11.2	11.2	11.0	12.6	12.0	<b>12.0</b>	11.5
	0.7未満0.3以上		10.8	11.2	11.9	12.3	12.7	<b>12.8</b>	12.3
	0.3未満		6.0	8.5	9.0	8.6	8.9	<b>9.3</b>	8.7
中 学 校	計		53.8	48.8	51.1	52.0	55.2	<b>53.6</b>	56.3
	1.0未満0.7以上		11.5	9.3	12.1	10.4	10.5	<b>9.3</b>	11.5
	0.7未満0.3以上		16.6	18.6	16.3	15.1	16.4	<b>15.8</b>	18.4
	0.3未満		25.7	21.0	22.7	26.5	28.4	<b>28.4</b>	26.5
高 等 学 校	計		58.6	X	53.4	X	X	X	62.3
	1.0未満0.7以上		X	X	X	X	X	X	11.8
	0.7未満0.3以上		X	X	X	X	X	X	16.6
	0.3未満		X	X	X	X	X	X	33.9

注) 「-」は計数がない場合。「0.0」は計数が表示単位未満の場合。

「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が5以上または受検者数が100人（5歳は50人）未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

### 3 心電図異常

小学校、中学校及び高等学校の各1学年において、心電図検査の異常者の割合を調査した。  
各学校段階の心電図異常の割合は、表10のとおりである。

表10 心電図異常の割合

(単位：%)

区 分	佐 賀					全 国				
	25	26	27	28	29	25	26	27	28	29
小 学 校 1 年	4.1	4.9	4.3	3.5	<b>3.5</b>	2.6	2.3	2.4	2.4	<b>2.4</b>
中 学 校 1 年	6.5	5.9	6.3	4.4	<b>2.7</b>	3.4	3.3	3.2	3.3	<b>3.4</b>
高等学校 1 年	6.0	5.3	6.3	5.0	<b>5.1</b>	3.2	3.3	3.3	3.4	<b>3.3</b>